



監査告示第16号

地方自治法第199条第9項の規定により、令和7年9月22日から  
同年12月25日まで実施した工事監査結果を別紙のとおり公表する。

令和7年12月25日

宇佐市監査委員 佐藤 博 美

宇佐市監査委員 辛 島 光 司

# 令和7年度工事監査結果報告

## 1. 監査の対象

- (1) 監査対象課 予算主管課 文化・スポーツ振興課  
工事主管課 建築住宅課
- (2) 監査対象工事 令和6年度平成令和の森スポーツ公園屋外トイレ  
新築・解体工事

## 2. 監査の期間

令和7年9月22日～令和7年12月25日  
(現地調査 令和7年10月22日)

## 3. 監査の着眼点

本工事について、①事業の妥当性、②設計の合理性、③積算の根拠性、④工事契約の合規性、⑤特記仕様書の運用性、⑥工事監理の適切性、⑦工事の安全性確保などに着眼し、実施した。

## 4. 監査の実施方法及び内容

実施にあたっては、監査委員出席のもと対象工事の関係職員から説明を聴取し、書類の審査を行うとともに、現地調査を行った。

なお、工事の専門的知識を補完するため、特定非営利活動法人西日本建設技術ネットに技術調査を委託し、技術士の派遣を求め、その意見を参考とした。

## 5. 監査の結果

監査の結果、当該工事については関係書類の整備及び施工管理等が良好な監督のもと適正に執行されているものと認められた。

特定非営利活動法人西日本建設技術ネットからの工事技術調査報告書によると、「品質、コスト、工期ともに良好であり、事業の必然性、設計の合理性、積算の根拠性、特記仕様書等の運用性、工事契約の合規性、工事監理の適切性、工事の安全性確保の各項目いずれも適正であった。」との報告もあり、改善措置を講ずる必要がある指摘事項等はなかった。

なお、本監査に係る委託先の技術士による所見は、別紙報告書のとおりである。

# 宇 佐 市

## 令和 7 年度工事技術調査報告書

令和 7 年 1 1 月 2 8 日

特定非営利活動法人 西日本建設技術ネット  
技術士（建設部門） 吉川 正  
一級建築士 淀川彰範

調査実施日 令和 7 年 1 0 月 2 2 日（水）  
調査場所 宇佐市役所選挙管理委員会室及び当該工事場所  
監査執行者 代表監査委員 佐藤 博美  
監査委員 辛島 光司

調査立会者 監査委員事務 局長 久保 佳紀  
〃 次長（総括） 小幡 聡美  
〃 副主幹 近藤 貴喜

調査対象工事  
令和 6 年度平成令和の森スポーツ公園屋外トイレ新築・解体工事

## I. 調査の概要

令和7年度宇佐市工事監査において、文化・スポーツ振興課(予算担当課)と、建築住宅課(工事担当課)により実施された当該工事について、令和7年10月22日に技術士と一級建築士が技術調査した結果を報告するとともに、調査によって得られた改善のための技術的事項を助言する。

I. 調査の概要、II. 結果の総括、III. 調査の結果、に分けて記述する。

技術調査の対象工事に関しての事業計画、設計、積算、工事発注・契約、施工、監督、検査等に係る事項について、技術的観点から調査した。午後には現地調査を実施した。

技術調査の着目点は、①事業の必然性、②設計の合理性、③積算の根拠性、④特記仕様書等の運用性、⑤工事契約の合規性、⑥工事監理の適切性、⑦工事の安全性確保である。

調査に際しては、担当部署の担当者から説明を受けた。

今回調査へのご協力に感謝申し上げますとともに、本報告書が今後の改善に役立てば幸いである。



## 1. 工事内容説明者

文化・スポーツ振興課

課長 大富 義徳

スポーツ振興係

主幹(総括) 磯田 修一

副主幹 久保崎 淳也

建築住宅課

施設整備係 主幹(総括) 児島 公洋

〃 副主幹 吉松 京亮

## 2. 工事概要

### (1) 事業概要

大分県宇佐市にある「平成令和の森スポーツ公園」は、自然に囲まれた抜群の環境にあり、公園内には屋根付運動広場、野球場、テニスコート、多目的運動広場などの施設がある。農村公園近くにあった公衆トイレの老朽化が進行したため、解体・新築することとした。(①事業の必然性)

### (2) 工事の概要

文化・スポーツ振興課(予算主管課)の要望を設計条件(最低限)(屋外トイレユニット、男/女/多目的、必要衛生器具数、駐車場内への配置)とし、現地調査、既存給排水・

電力等の設備状況調査及び法令上の諸条件の調査により、各種条件整理及び設計諸元を決定した。また、各種仕様決定については、予算主管課に比較表やコスト等の条件を提示しながら協議により工事内容を選択した。

(3) 工事場所 宇佐市院内町原口

(4) 工事数量

□屋外トイレ新築・解体工事

新築：公衆トイレ

鉄筋コンクリート造（ユニット型）

平屋建て 延べ面積 20.39 m<sup>2</sup> 1棟

合併処理浄化槽（40人槽）設置・外構

建築主体工事、電気設備工事、機械設備工事

解体：公衆トイレ

鉄筋コンクリート造

平屋建て 延べ面積 8.67 m<sup>2</sup> 1棟

浄化槽解体・外構

(5) 設 計 西胤和弘アトリエ一級建築士事務所  
選定方法：指名競争入札  
設計業務委託：935,000円（税込）

(6) 工事監理 直営

(7) 工事請負業者 株式会社スミテック  
選定方法：一般競争入札

(8) 請負金額 当 初 35,585,000円（税込）  
変更後 36,104,200円（ 〃 ）

(9) 契約年月日 令和6年6月10日

(10) 工 期 令和6年6月11日 ～ 令和6年11月11日（当初工期）

(11) 工事進捗率 100%（完了）

(12) 工事監督員 施設整備係 副主幹 吉松 京亮  
〃 〃 中西 佳一

## Ⅱ．結果の総括

技術調査の結果を総括する。

市民が公共工事に求める①品質（Ｑ）、②コスト（Ｃ）、③工期（Ｄ）の“需要の三要素”で評価する。

品質：工事目的物である公共トイレは完成し供用を開始している。設計要求品質が実現できている。

コスト：請負金額を５１９，２００円増額している。①週休２日（４週８休）、②ピクトサイン追加、③地下埋設物撤去による変更、④既存仮設プレハブトイレ移設による変更であり、適切に変更手続されている。

工期：当初工期内に竣工している。週休２日を適用しての工程管理としては評価に値する。

つまり、品質、コスト、工期ともに良好である。

## Ⅲ．調査の結果

### １．工事発注までに關する事項

#### （１）設計について

ア）設計は、令和５年度に西胤和弘アトリエー級建築士事務所に委託している。

イ）設計打合せが良好であり、利用者の利便を考慮したよい設計となっている。

ウ）設計方針は、以下である。

①配置計画：屋外トイレ及び浄化槽をテニスコート南側へ配置（予算主管課の要望への対応及びインフラ供給に最適な場所で決定）

②便所計画：１）男子便所【洋式便所〔普通便座〕１、小便器 ２、小便器手摺 １、手洗器 １、化粧鏡 １、用具入れ １、掃除用水栓 １、換気扇 １】、２）女子便所【洋式便所〔普通便座〕 ２、手洗器 １、化粧鏡 １、換気扇 ２】、３）多目的便所【洋式便所〔ウォシュレット便座〕 １、Ｌ型手摺 １、跳上手摺 １、手洗器 １、化粧鏡 １、ベビーベット １、呼出装置 １、換気扇 １】、４）合併処理浄化槽 ４０人槽を選定した。

③設計業務委託にて、現地調査、既存給排水・電力等の設備状況調査を十分に行い、法令上の諸条件を明確にすることにより、屋外トイレに供給するインフラ設備への無駄がない（既存利用等）計画とした。また、設計条件に適合する屋外トイレユニットメーカー及び仕様を調査し、コスト比較を行い、最適なトイレユニットを選択した。施工上のコスト縮減として、新設浄化槽の設置に伴い発生する残土を、解体する浄化槽の埋戻しに転用するなどの計画の工夫を施した。

④建築基準法第１８条第２項の規定による計画の通知を要しないため、大分県福祉のまちづくり条例の届出は不要である。しかし、大分県福祉のまちづくり条例上、公衆便所は特別特定施設に該当するため任意ではあるが、整備施設（便所）の基礎的基準として、車いす使用者用便房の設置、腰掛便座、手すり等の適切な配置、車いす使用者が円滑に利用できる十分な空間の確保、床置き小便器の設置等に出来る限り（コスト面考慮）適合するように配慮している。

エ）設計報告書を確認し、適正に設計されていることを確認した。（②設計の合理性）

## （２）積算について

- ア）積算は、委託先である西胤和弘アトリエー級建築士事務所が実施している。
- イ）物価版など刊行物に公表されている単価と、県の単価を参考にしている。
- ウ）公表されていない特殊単価では、３社から見積を徴収し、見積比較表を作成して「決定単価」としている。
- エ）設計変更
  - ①週休２日（４週８休）工事の実施による設計単価（労務費等補正）の変更  
受注者が週休２日工事を実施、達成したため労務費等を補正し、増額変更を行った。
  - ②ピクトサイン追加による変更  
合同現地確認の際に、予算主管課より視認性の確保のためピクトサイン追加要望により変更を行った。
  - ③地下埋設物撤去による変更  
当初設計では予期できない地下埋設物が、既存屋外トイレ解体に伴う掘削時に確認された。屋外トイレ解体後は不用物となり廃棄物に該当するため、適正に処理するように変更を行った。
  - ④既存仮設プレハブトイレ移設による変更  
当初設計では予定していなかった既存仮設プレハブトイレの移設を予算主管課の要望により行った。
- オ）正しい積算及び設計変更であることを確認した。（③積算の根拠性）

## （３）特記仕様書について

- 特記仕様書は、設計図面に必要な事項について記載されている。（④特記仕様書等の運用性）

## （４）入札・契約について

- ア）工事の発注は一般競争入札であり、３社が応募して適正に選定されている。
- イ）契約関係書類が、正しく整備されていることを確認した。（⑤工事契約の合規性）

## ２．工事着工に関する事項

### （１）施工計画書について

- 全体施工計画書、工種別施工要領書が作成されていることを確認した。

### （２）工事管理

- ア）必要な工事管理記録を確認した。
- イ）品質管理に関しては、施工計画書の内容に即した内容となっている。
- ウ）工程管理に関しては、適切に実施されていることを確認した。

### （３）下請管理について

- ア）下請管理については、「施工体制台帳」、「施工体系図」が作成されていることを確認した。
- イ）着工前に必要な書類として、現場代理人及び主任技術者届・工事請負契約書・全体工

程表・建設業監理技術者資格証写し及び工事着工届を確認した。

ウ) 着工後に必要な書類として、施工計画書・要領書・打合わせ議事録・工事記録写真・関係諸官庁への届け出・基本工程表・施工体制台帳写し・材料試験・工事日報及び廃棄物処理書類関係を確認した。

#### (4) 工事監理について

ア) 工事監理は、直営である。

イ) 建築住宅課では、「工事打合せ簿」を活用して、現場の変化や関係者の意見を課内に集め、それを内部で検討し速やかに変更を指示している。

ウ) 「工事成績評点」は、77点であり、配慮の行き届いた工事内容を適切に反映している。

エ) 文化・スポーツ振興課を含めて、市役所内の書類は決裁者が甲乙丙などと明確に識別されており、関係者の回覧印も揃っており、適切な管理・監督が行われている。(⑥工事監理の適切性)

#### (5) 工事完成の手続きについて

ア) 調査当日の書類調査のなかで、「検査結果通知書」検査員職氏名が、建築住宅課職員になっていることに疑問を感じた。

イ) 竣工検査は機能分離の観点から、通常契約検査組織の検査員によって実施される。

ウ) 宇佐市の場合、行財政経営課の中に「財政係」、「契約係」、「検査係」、「公共施設管理係」があり、工事の竣工検査は“検査係”の担当となる。

エ) 辞令(建設工事の委嘱検査員)として、建築住宅課職員が任命されていることを確認した。

オ) また、「工事完成通知書」では、行財政経営課から建築住宅課職員が、当該工事の完成検査員に任命されていることを確認した。

カ) 以上の結果、この工事の完成検査は、責任部署である行財政経営課によって、実施されていることが確認できた。

キ) よって当該工事の完工手続きは適正である。

#### (6) 安全管理について

工事写真の確認によると、現場の安全管理はスポーツ施設利用者と工事関係が分離されており、安全対策上問題ない。(⑦工事の安全性確保)

#### (7) その他

現場調査では、RC構造の対候性、トップライトの明るさ、ピクトサインの分かりやすさが引き立つ、よい施設ができたと感じた。

以上